

# にこにこ通心

平成31年2月

vol.93 ↑



書ける時に  
前倒し作戦で笑

## 笑顔相続の道先案内人

自分に与えられた役割... 笑顔相続、やはりココです。(もちろん保険業務が引き続き  
相談者の許可を得ましたので、事例をひとつご紹介します。活動のベースとなります。)

昨年、相続コンサルタントとして顧問契約を結んでいるクライアントAさんの家族会議に同席させて  
いただきました。

(創業者(お父様)  
相談者Aさん(お父様の長女)  
Aさんのご主人(現在の会社代表)  
Aさんの弟(お父様の長男)  
僕 計5名)



富山市内で会社経営をされているAさんご夫婦。  
将来起こるであろうお父様の相続を考えた  
時、1つの心配ごとがありました。  
今から遡ること、十数年前、人生が大きく  
変わる出来事がありました。

会社の後継者となる予定だった弟さんが突然家を出て行ってしまったのです。以来、Aさん夫婦が  
会社を支えてきました。今日に至るまで幾々の困難を乗り越えてきました。  
時は流れ、Aさん夫婦も50代に。気になり始めた「相続」や「後継者」のこと。

将来、父の相続が発生した時、姉弟間で揉めることはないだろうか。相続が原因で、  
会社の経営に支障をきたすことにはならないだろうか。次の代に負担をかけることだけは避けたい。

僕はAさんと話し合う中で、「僕が司会をするので、当事者全員が集まって話し合う場を作りませんか?」  
と提案しました。かくして当事者4名が集まり、僕の司会進行で家族会議が開催されました。

約1時間。初め緊張していた皆さんでしたが、お父様の気持ちを聞き、お一人ずつ話して  
いただくことで、少しづつ表情が和らいでいくのが分かりました。途中からはとても温かい空気になりました。

後日、Aさんに感想をお聞きすると、

- ・勝裕さんに間に入ってもらうことで、4人での冷静な話し合いの場がもてよかった。
- ・父の子供達への想いをあらためて確認できた。
- ・弟の今の気持ちを聞くことができた。
- ・弟の父を想う気持ちがよく分かった。
- ・主人が父に対して優しくなった。

家族間で話し合いの場を作る大切さを再認識。

もうひとつ言うと、第三者である相続コンサルタントの我々が司会進行役となり、家族会議に同席  
する意味はとても大きい、と実感しました。争族ではなく笑顔相続に。そのお役に少しでも  
立てたら嬉しいです。と、この先には笑顔相続から笑顔家族につながることを願って

※ コンプライアンスに配慮しながらヒアリングを行い、必要に応じて専門家(税理士、司法書士  
行政書士、弁護士などの有資格者)にお任せします。